

リハビリテーション科 スタッフ紹介

診療部長

あぼ まさひろ
安部 雅博



患者さんへのひとこと

当科には様々な障害をお持ちの方が来院されます。患者さんが「自分らしく」生きるための活動をいかに育んでいくか、そのリハビリテーション医学の理念を胸に、私たちは皆様とともに考えていきたいと思っております。

技師長

なかやま やすひで
中山 恭秀



患者さんへのひとこと

リハビリ科のセラピストは運動・動作・言語に関する治療のスペシャリストであり、みな自慢のスタッフです。最先端の技術を基にリハビリテーション治療が提供できるよう、日々精進してまいります。

チームを支えるスタッフ



患者さんへのひとこと

私たちは、医師・看護師と30名の療法士からなるリハビリテーション専門スタッフです。それぞれの専門性が重なり合い発揮される多職種の総合力と、チームだからこそ引き出される力を大切にしています。この力を最大限に活かせる体制を整え、患者さんにご家族に安心して治療をお任せいただけるよう、チーム一丸となって日々の診療にあたっています。

若手スタッフ



患者さんへのひとこと

私たちは、患者さんの「やりたい」という想いに真摯に向き合うことを大切にしています。だからこそ誰よりも近くで歩みを支え、ご家族にも安心を届けられる存在でありたいと思っています。一人ひとりの「その人らしさ」を大切に、皆さまと一歩ずつ、ともに歩んでいければ嬉しいです。

TOPICS

専門医が動画でわかりやすく解説

「専門医紹介動画」公開中!

慈恵大学病院では、患者さんにとってプラスになる医療関連の情報をお届けできるよう、動画による情報発信も積極的に行っております。各分野の専門医が出演し、病気の特徴や検査・治療についてわかりやすく解説する「専門医紹介動画」を公開しています。前立腺疾患、小児の病気、心臓外科手術、消化器疾患、緑内障、糖尿病など、さまざまな診療科の医師がそれぞれの分野の医療について紹介しています。動画は病院ホームページの「JIKEI VIDEOS」およびYouTubeチャンネルでご覧いただけます。



JIKEI VIDEOS
学校法人慈恵大学ビデオ

≡ 今後も順次公開予定! ≡

詳細については、QRコードを読み取り動画をご視聴ください。



すこやか

No. 78
2026

インフォメーション

慈恵大学病院だより



特集

リハビリテーション科のご紹介

スタッフ紹介

リハビリテーション科

TOPICS

「専門医紹介動画」公開中!



慈恵医大リハビリテーション科は外来棟の6階にあり、医師12名、理学療法士19名、作業療法士8名、言語聴覚士3名、看護師3名が在籍しています。当科は脳卒中後遺症である片麻痺や失語症に対する反復性経頭蓋磁気刺激を治療体系化し、ボツリヌス治療や各種療法（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）と組み合わせた、独自の入院・外来診療パッケージを提供してきました。また、人工関節置換術や心疾患術後、造血幹細胞移植などの周術期リハビリテーション医療においても、常に高い水準の医療技術を提供することを目指しています。治療にあたっては、リハビリテーション医学の専門医が的確な評価に基づいて計画を立て、運動・作業・言語の専門的治療を行うセラピストと密に連携して進めてまいります。学祖・高木兼寛の教えである「病気を診ずして病人を診よ」の理念は、まさにリハビリテーション医療の精神そのものです。我々は、日々患者さんから学ぶ姿勢を大切にしながら、全人的な医療の提供に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

診療部長／安保 雅博



■慈恵医大リハビリテーションチーム（外来棟6Fリハビリテーションエリアにて）



■磁気刺激治療



■日常生活動作室



■心臓リハビリテーションエリア

診療に関わる職種の紹介

リハビリテーション科医の役割

リハビリテーション科医師は、病気やケガで低下した身体機能を回復させ、自分らしい生活を取り戻すための「活動」の専門医です。当院のような急性期病院では、発症や手術後の早い段階から主治医と緊密に連携し、全身状態を管理しながら安全にリハビリテーション治療を進められるよう指揮を執ります。療法士と共に、患者さんが一日も早く回復し、次のステップへ進めるよう、医学的な視点から全力でサポートいたします。

理学療法士の役割

理学療法士は、「もう一度動けるようになりたい」という患者さんの願いを支える専門職です。病気やけがの直後からベッドサイドへ伺い、寝返りや立ち上がり、歩行など日常生活に欠かせない基本動作の練習を行います。また、磁気刺激治療や各種機器、装具や補助具も活用し、身体機能や動作能力を専門的に評価しながら、科学的根拠に基づいた治療を実践しています。ご家族とも連携しながら生活環境を見据え、身体機能と日常生活動作の改善に取り組み、安心して日々を過ごせるよう回復を支えています。

作業療法士の役割

作業療法士は、脳卒中や神経難病、手の骨折、がんなどの患者さんを対象に、発症後や手術後の早い時期から、退院後の生活を見据えた患者さん一人ひとりに合わせた支援を行います。運動麻痺や骨折による機能低下に対する運動療法に加え、安全な動作方法の練習や道具の工夫を通して、食事や着替えなど日常生活動作の獲得に取り組んでいます。外来診療では、生活期のリハビリテーションや高次脳機能障害の就労支援を行っています。医師や看護師など多職種と連携しながら「その人らしい生活」への復帰を支援します。

言語聴覚士の役割

言語聴覚士は、言葉や聞こえ、飲み込みに問題のある方に対してリハビリテーションを提供しております。また、対象となる患者さんの層も幅広く新生児から高齢者の方まで多岐に渡ります。言葉は自分自身の気持ちを表現するために最も重要な伝達手段です。言葉に問題を抱えた患者さんに対して、どのようなリハビリテーションによって気持ちを表現しやすくなるのか、どのような工夫が必要なのかを評価し、訓練を行っています。飲み込みについては、患者さんの食べやすい食事の形や姿勢を検討し、口から食べることを支援しています。

看護師（リハナース）の役割

看護師は、様々な疾患や障害を抱えた患者さんやご家族に寄り添い、心理面も含めて前向きにリハビリテーションに取り組めるよう、他職種と連携し、その人らしい生活の再構築を支援しています。心臓リハビリテーションチームの一員として、患者さんの個別的な背景をふまえ、安全な運動療法の実施や再発予防のための生活調整のアドバイスを行い、生活の質の維持・向上を支えています。また、婦人科がんや乳がんのリンパ節郭清術後の患者さんに対するリンパ浮腫予防のセルフケア支援にも取り組んでいます。お困りのことがありましたら、いつでもお気軽にご相談ください。